

史實調査參考資料報告

摘要

所屬(部、隊、固有名)	全右所在地	職官	終戦時ノモノヲ記ス
獨逸機關銃中隊	沖繩	陸軍中尉	[Redacted]
支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴	<p>昭和十五年六月十日東部第七部隊應召、昭和十七年四月迄部隊勤務、同年五月初旬獨逸步兵百十三大隊ニ轉属中支二派遣サレ、昭和十八年十月廿一日召集解除、昭和十九年七月廿一日再召應召、獨逸大隊編成、同年八月十日捕縛、那覇港上陸、同年十月廿四日附ヲ以テ中隊長ヲ命ゼラル、昭和二十年四月一日敵上陸現五ニ至リ</p>	職ノ變更及主ナル參加戰團名ヲ記ス	
所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	<p>昭和十九年七月廿三日獨逸機關銃中隊</p>	最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ向ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	
所屬部隊作戦經過ノ概要	<p>昭和十九年八月十日那覇港ニ上陸以來、武庫兵團ニ配属島尻地区作業ニ従事、八月十一月武庫兵團轉進スルヤ、同年十二月石井田ニ配属、昭和二十年四月敵上陸ニ至リ、向ニ百里市北方ニ移テ、阿波本、那覇附近、敵進入ノ村ニ部隊長シ、中隊ヲ率ヘ、敵ノ侵入ニ對シテ、現在地附近ニ於テ全員壯烈ニ戦死シタリ</p>	歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス	
終戦(又ハ主力ノ戰團終了)後ノ概況	<p>昭和十九年十一月十五日中隊(内田隊)ハ石井田獨逸步兵百十三大隊ニ配属、百里地区防衛隊トシテ百里地区巡警備ニ任ズ、昭和二十年五月下旬敵首里線ニ至リ、四月下旬敵全滅、敵ヲ退ス、五月十九日大隊長以下喜屋武半島ニ後退ス、六月中旬向ニ下向ニ至リ、間名城ニ喜屋武武庫兵團ニ戦死ス</p>	歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス	
先歸郷(又ハ連絡)	[Redacted]		
其ノ他ノ參考事項	[Redacted]		
備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス		

68

68 M